

～北魚沼コシヒカリの品質回復に向けて～

中干し・溝切りは適期に確実に実施しましょう!

中干し開始は … 早めでもOK! 遅いといいいことなし!!

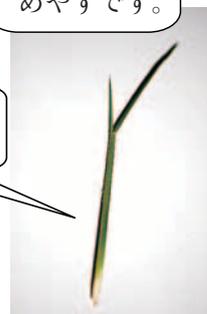
中干し開始時期のめやす(コシヒカリBL)

○植え付け株数の違いによる「中干し」開始時期のめやす

植え付け株数 (田植機のセット)	中干し開始時期(必要な茎の数)		m ² あたり 288本
	目標穂数 360 本/m ² の 80%確保した頃		
50株/坪	1株あたり	18本	
60株/坪	1株あたり	15本	
70株/坪	1株あたり	13本	

田植えの
1ヶ月後が
めやすです。

これも茎数1本
と数えます。



中干し・溝切りの効果

- 生育を抑え無効茎の発生を抑制 → 良質茎の確保
- 土壌への十分な酸素供給 → うわ根の発生を促し根の健全化
- 下位節間の伸長を抑制 → 倒伏防止
- コンバインの作業性確保 → 刈取間近まで湛水可能

どちらが開始適期でしょうか?



写真①



写真②

※答えはこのページの中にあります。

注意

中干し開始が遅れると、本格的な降雨時期となり、効果が半減! 刈取りまで影響します!!

■ 中干しの程度

- 田面に小ヒビが入り、足跡が付いて歩ける程度としましょう。
- 転作あとや土壌が肥沃な地帯、生育量が大きく倒伏しやすいほ場では、早めに中干しを始め、中干しの程度は田面に小ひびが入ってから数日干すなど強めに干しましょう。
- 生育が不良で、茎数が多くなりにくいほ場であっても、中干しのスタートは通常と同様に始め、生育量は中干しの終了を早めるなど、中干し程度の強弱で調節しましょう。

■ 溝切り

- 溝の間隔は約3m(10条に1本)程度、溝の深さは10cm以上を確保しましょう。
- 溝同士を連結し、水口と水尻は必ずつなげましょう。中干しの効果が安定し、その後の水管理が容易になります。

中干しは適期に開始し、出穂1ヶ月前までに終了

- 写真①の状態になったらほ場の茎数を確認し、速やかに中干しを開始しましょう。
写真②のような状態では遅すぎです。
- 中干しが強すぎたり、終了時期が遅れたりすると、穂肥を吸う大切な“うわ根”を傷め品質低下につながります(特に高温年では顕著)ので、出穂1か月前までに中干しを終了しましょう。

中干し終了後は

○急激な湛水管理は避けて下記の通り順次移行していきましょう。

浅水の間断湛水



飽水管理



常時湛水

各地区ごとに中干しに関する「あぜ道指導会」を開催しますので積極的に参加してください。

(開催日等は回覧及び新聞折込みチラシ等でお知らせいたします。)